



地域通貨専門部会 — やしやごに残す原村 — — 地域通貨活用術 —

少ないお金であっても、地域内を何度も循環するお金ならば、多くのお金が地域に投入されたことと同じ経済効果が生まれます。地域通貨は地域の経済を元気にするためのひとつの方法です。地域通貨の仕組みを考えようと、経済評論家の森野榮一氏を講師兼アドバイザーにお願ひし、講演会と学習会を開きました。



地域通貨とは・・・

法定貨幣ではないが、あるコミュニティ内などで、法定貨幣と同等の価値あるいは全く異なる価値があるものとして使用される貨幣です。地域通貨がコミュニティ内で流通している例や、割引券のような役割を果たすなど、地域通貨の経済的効力は、地域通貨を活用しているコミュニティごとに異なります。その価値を認めるもの同士での贈与、サービスとの交換、売買が目的や地域でのみ発行され、利用できる、通貨に似た価値の基準を持ちます。日本では、通貨の発行は法に触れる恐れがあるので、厳密には通貨ではありません。

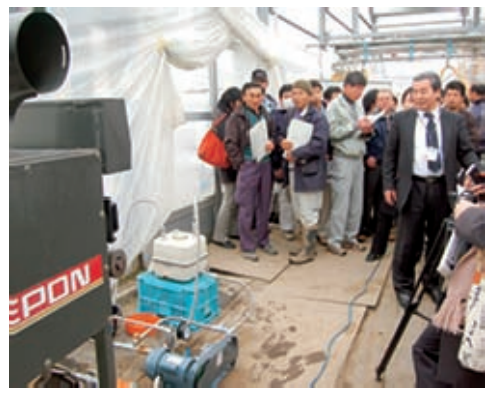
など本来地域で賄えるものも多いはず。しかし、買物やサービスの地域外で賄っているのが現状です。活かされていないものを地域内で活かすためには、一人ひとりが日常生活から互いに連帯協力しながら人や物、知恵といった地域資源の見直しや活用をさらに進めたいと考えるのが何より大切と考へます。

循環型社会の実現は小規模自治体だからこそ可能です。そのためにも専門部会は地域通貨取引の対象を生活必需品、農産物、自然、ごみを含めた資源、エネルギー、人的力（マンパワー）などと考へていきます。今後、学習会で学んだことを生かし、原村にふさわしい地域通貨を創造します。



地球温暖化防止への 取り組み

地球温暖化防止に対する取り組み
わたしたちの住んでいる地球ができて、46億年。地球には青い海と緑の大地、そして大気があり、多くの生命が誕生しています。地球に人類が現れ、進化し続けた結果、わたしたち自身が地球を破壊し、わたしたちの住む地球は危機的な状況にあります。特に問題となっているのが、地球温暖化です。地球の温暖化が進むと、植物などの生態系が変わったり、異常気象が起きたりします。原村の村花、レンゲツツジも絶えるかもしれません。気温の上昇による干ばつ等、もつと大きな被害を受ける場合もあります。原村では地球温暖化防止の一翼を担うため、新エネルギーと省エネルギーによる取り組みを行っています。



1月18日～環境適応型エマルジョン燃料デモ～
水と重油を混合した燃料をハウス暖房に使用

新エネルギーと省エネルギー
新エネルギーは自然エネルギーやバイオマス由来のエネルギーなどを化石燃料の代わりに利用しようとするものです。省エネルギーは、エネルギー自体の使用を控え、化石燃料由来エネルギーの使用量を減らすこととするものです。新エネルギーも省エネルギーも、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の発生を抑え、限りある化石燃料の有効活用を図ろうとするものです。原村では平成17年度に「人々が支える田園リサイクルのむら」を基本理念に新エネルギービジョンを策定し、平成19年度には「灯りを消して星降る里」を基本理念に省エネルギービジョンを策定いたしました。新エネルギーと省エネルギーは車の両輪のような関係がありますが、新エネルギーが大きなプラントを必要とする場合が多いのに対し、省エネルギー活動は、すぐにも出来るのがほとんどです。省エネの理念は「灯りを消して星降る里」となっていますが、灯りに限らず、暖房や、車のエンジンなどをコマメに消して、地球環境の改善に取り組んでいきたいものです。



原村の美しい 星空を歌う アクアマリン



原村の星まつりに音楽ユニット「アクアマリン」が登場したのは今から10年前の1998年でした。それ以来アクアマリンは毎年のように原村を訪れています。2001年の21世紀メモリアルイベントに出演した際に原村の美しい星空と夕焼けを歌った曲「星降る里 feel the starry sky」を原村に寄贈しました。その後「COSMOS（コスモス）」が大ヒットし全国の小中学校で歌われるようになりました。原小学校でも昨年の音楽会で教職員が「COSMOS」を合唱し、アクアマリンが注目されるようになりました。子どもたちからアクアマリンに会いたい、一緒に合唱したいという声が上がりました。2月には、原村特産品・観光開発事業実行委員会が主催したコンサートが開かれました。



原小学校体育館にて
星降る里コンサート in 原村



アクアマリン

「アクアマリンは、結成して10年って原村星まつりに初出演した年じゃないですか！」そうです。アクアマリンは、原村星まつりでデビューし、全国に名前を知られるようになりました。「星空・宇宙・自然・旅などを題材に、生命の大切さや生きることのすばらしさを歌い、これまでに行ったライブは331回。このうち天文台や星まつりなどのイベントへの出演が94回を数えます。代表的な歌「COSMOS」は、文部省国立天文台後援のスターウイークのテーマソングにも選ばれています。昨年、ボーカルのsachikoさんとミマスさんは結婚され約半年間、南アメリカ等、海外を旅していました。その間大自然に触れ、すばらしい人々と交流を結んでいます。これらの体験は今後の音楽活動に生かされることでしょう。「星降る里」も原村の美しい自然を題材に作曲されました。アクアマリンは原村を第二の故郷（降る里）と考へています。

♪ 星降る里

「星降る里」
作詞作曲 ミナモトコウ・ミマス
紅く染まる夕焼けの空
木立をわたる優しい風
暮れゆく世界つむむように
星たちの歌が今日も始まる
丘の上には今も変わらない
宇宙の景色が僕らを待っているから



めぐる星座と語り合える
この場所で
流れ星がほら降りそそぐ
この場所で
Feel The Starry Sky

誰かが一度は心のなかに描いていた
遠い世界への憧れを思い出して
Feel The Starry Sky
めぐる星座と語り合える
この場所で
流れ星がほら降りそそぐ
この場所で
Feel The Starry Sky



村づくり通信

村づくり戦略推進室
村づくり係からのお知らせ

TEL.79-7922 (直通)
E-Mail:muradukuri@vill.hara.nagano.jp



問 〇 ボックスに入れ歯を入れる時は・・・

保健福祉課社会福祉係 ☎ 7917092
原村社会福祉協議会 ☎ 7917228



- ① 熱湯か除菌タイプの入れ歯洗浄剤で消毒をする
 - ② 新聞又は広告等で包みビニール袋へ入れる→回収ボックスへ
- ※金属がついていれば古い不要入れ歯も回収できるのでぜひ回収にご協力ください

回収ボックスへは金属のついていない入れ歯は入れられません。先に、不要入れ歯に金属がついているかどうかを確認してください。



地域福祉センターに、10月9日から不要入れ歯の回収ボックスを設置しました。これは、埼玉県NPO法人・日本入れ歯リサイクル協会と村が提携し、不要になった入れ歯を回収するものです。回収された入れ歯は高価な金属が含まれているため精製すると収入を得ることができ、収入の45%ずつを日本ユニセフ協会と原村社会福祉協議会へそれぞれ寄付して、残りは協会の活動資金になります。みなさまからの「不要入れ歯」・・・お待ちしております!!

不要入れ歯の回収ボックス設置



11月23日・・・フランクリン市の議場でマーク ボール市長と共に



ブケコへ中学校で

テ・ハエレンガ(様々な交流と出会い)を目的に住民訪問団として行って参りました。原村と相互友好都市を結んでいるニュージーランド北島のフランクリン市ブケコへ区との交流と、農業を主体とする産業視察や文化施設見学、ホームステイ等々10年に渡る中学生の交流に加えての訪問でした。人口密度が日本の1/25という独特の国土で、先住民であるマオリ族の文化を大切にしながら、農業国として発展する国を見聞する良き機会となりました。今回はビジネスや観光のみでは味わえない多くの体験と見聞をさせて頂きました。書けば本になる位であります。団員の報告もそれぞれの専門分野ごとに3回新聞に掲載され、全団員のそれぞれの体験をもとにまとめられ報告されており機会あるごとに皆さんにお伝えしております。

マオリ族に発見されて1000年、イギリスから移住が始まって200年、人間の営みは多くの環境を破壊し北島の壮大な原生林は現在保護区の4%のみとなり、絶滅又は危惧種となっている多くの動植物があるとのこと非常に残念だと思えます。

テ・ハエレンガプロジェクト

団長 五味 光亮

今春、東海大三高校を卒業した清水玲香さんが、2月14日村長室を訪れ、1月末に行われた国体冬季大会「長野かがやき国体」での活躍やインターハイ・全国高校スケート選手権の女子千メートルで初優勝したことなどを村長へ報告しました。大会の様子を、一緒に訪れたコーチ、中島清隆さんが説明し、村長は「原村の力を外へ示すことにもなり嬉しい」と満足そうに聞いていました。今後の進路の話になり「世界の舞台でやってみたい」というのはひとつの幸せだと思ふと村長が語りかけると清水さんは何層もうなずき、その顔にはさらに上を目指して負けずに前進するんだという強い意志が表れているようでした。

インターハイの女子五百メートルではトップとわずか0.06秒差の2位。上位5人の選手が1秒以内のタイムを競っている中で、スケート競技の世界は厳しく、それと共にその0.01秒をクリアした時の喜びは大きいでしょうね。

◆インターハイの結果
▽女子五百メートル 2位 1分22秒63(大会新)
(1回目) 2位 41秒41・2回目 2位 41秒22)
▽女子千メートル 1位 1分22秒51
長野県で行われた国体冬季大会「長野かがやき国体」には、原村出身の選手が6人、長野県選手団として参加しましたので紹介させていただきます。

- 鎌倉ひとみさん(成年女子)
- 中村健斗さん(少年男子)
- 清水玲香さん(以下少年女子)
- 清水仁美さん
- 清水優香さん
- 小島早織さん

今後の活躍が楽しみです。

「村の人や学校などいろいろな人に応援してもらって嬉しかった」と語っていました

清水玲香選手 高校スケート女子千メートルで初優勝を果たす

写真提供/(有)スポーツ写真通信社



↑完成した特別教室棟/1月15日から活用されています。

原小学校に新しい特別教室棟が完成 ～木のぬくもりのある快適な学習環境～

★施設の概要

- 場 所:原小学校教室棟南側 □建物構造:鉄筋コンクリート 平屋建て □床面積:406.8㎡
- 総事業費:9915万1500円(関連工事を含む) □施工:興和工業株式会社 □設計、監理:有限会社なとり設計
- 部屋名:図工室、フリースペース、図工準備室、音楽室、楽器庫、音楽準備室、廊下

～教室、通路に木の温かみを、統一感ある木質空間の構成～

床材は教室棟と同じナラ材クッション付を採用、腰壁への羽目板の導入、木製とびら、木製建具、木製複合サッシとし、木造校舎に近い木の質感を出しました。



～そのほかの設備～

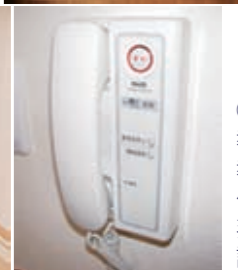
①廊下には掲示スペースや掲示用ワイヤー、フックを取り付け、作品展示が容易にできるようにしました。



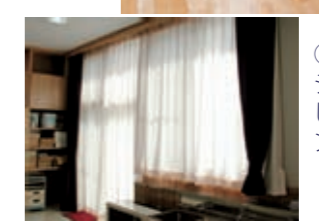
③各教室を効率的に温められるように、教室ごとにFFファンヒーターを設置しました。



②安全を考慮し、教室棟同様に各教室から事務室への直通電話、非常用ブザーを設置しました。



④図工室、音楽室ともプロジェクタースクリーンを設置し、調光用、暗幕用にカーテンを取り付けました。



～図工室をより有効に利用できる空間形成～

図工室にフリースペースを組み合わせ一体的に配置し、様々な活動ができるようになりました。可動間仕切り壁で、空間を仕切り、クラブ活動などに弾力的に利用できるようにしました。



～合唱、合奏するのに適した音楽室～

歌声の響く開放感のある高い天井にし、音響材料としての吸音材、反射材も木のぬくもりを持たせた木製板を使用し音楽室全体を覆いました。



鍵引渡式後には地域や保護者のみなさんへ一般公開されました。



なっちゃんのワクワクセロリ通信

～小池奈津@役場総務課の街角interview～

Kohō HARARA

特集

インタビュー

高橋の備忘録

行政情報

保健・福祉の掲示板

トピックス

10月26日に平成19年度原村表彰式が行われ、3名の方が表彰されました。今回は、この3名の方に①在職中思い出に残っていること②好きな言葉③モットー④原村の皆さんへ一言をお聞きしました。

荒木桂男さん
自治功勞。平成3年5月1日～平成19年4月30日に原村議会議員に在職。平成9年5月～平成11年4月と平成17年5月～平成19年4月の合計4年間村議会議長に在職。



- ① 自立を議決したときのこと。
- ② 不言実行。自分がすぐ行動できる人間でありたい。
- ③ 人の意見を十分に聞く。農業は生涯学習である。
- ④ 16年間皆さんに支えられ過ぎることができました。ありがとうございます。これからは一住民として原村の発展に協力して参りたいと思います。

故 平出攻進さん
自治功勞。昭和36年3月10日～平成13年1月22日村職員として、平成13年1月23日～平成16年1月23日収入役として、平成16年1月24日～平成19年7月31日助役・副村長として、合計46年半在職。



- ① 多くの住民の皆様と出会えたこと。原村で行う数多くの新事業に手をつけ完成又は継続していること。
- ② 人の和・輪。世の中、人と人とのつながりが大切。
- ③ 仲良くすること。できるだけ人の意見を聞いてから判断したい。
- ④ 役場職員・理事者として46年5ヶ月過ごせたことに心から感謝し、各位からの教訓を今後の人生に活かしたい。もっと村の事業・行事に積極的に参加するようにしたい。

中村暁介さん
自治功勞。昭和41年4月7日～平成19年3月31日の通算41年間村職員として在職。



- ① 保健センター、地域福祉センターの建設。県営ほ場整備事業が推進できたこと。震災等の災害で多くの人達に支援できたこと。
- ② 努力と実行。
- ③ 村民の幸せ。
- ④ 村民大勢の皆様のご理解とご協力により福祉、農林、建設等の事業や施設ができたことに厚くお礼と感謝申し上げます。



式では、村の発展に多大な貢献をされた以上3名の方の功績をたたえ、村長は「今後、健康に注意され、余生に村のためを考えていただければありがたい」と述べて表彰状と褒章を贈りました。これからは皆さんのご活躍を期待します。



古民家でほのぼの!! 原村郷土館



原村郷土館は、中新田の伊藤米之助さんの家を移築したものです。9月17日(敬老の日)に原村民謡保存会の皆さんの踊りや、ヒジロを囲み昔の語りべを中村としゑさんからお聞きしました。語りべは原村の方言をふんだんに使った話口調で、古民家の雰囲気とマッチして、何かほのぼのとした気持ちになりました。

座敷には、タンスに眠っていた大正から昭和30年代までの着物も展示され、懐かしさが漂っていました。

秋の「棒道」を歩く



原村の「棒道」を探り拓く会が主催した10月20日の秋の棒道探査会には約30人が参加し、初めの1時間は「ルートはどうやって決めたか?」など、「上の棒道」にまつわる話を牛山甲子恵さんから聴きました。参加者一人一人に上の棒道のほか中の棒道も印刷された地図も配られ、棒道の作られた理由についてよく学べる内容となっていました。話のなかで牛山さんは「追い込んでいってみると(なぜそこへ棒道が作られたのかという)筋書きが出来てくる」と話していました。

「上の棒道」について話を聴いた後は実際に、美術館からついでいく上の棒道を約1時間半、歩きました。

環境にやさしい農業目指し室内区が取り組み ～行動計画に基づく住民一体となった村づくり活動

農業を使わず環境にやさしい農業に取り組み、非農家と協同で地域づくりを進めようという事業の趣旨に区が賛同し活動中、農家13名が長野県からエコファーマーの認定を受けました。12月9日、室内公民館で行われたあきほの郷収穫祭の中で交付式が行われ、減農薬で栽培された米やそば、野菜を使った料理を味わいました。村長は「安心、安全の見地からも嬉しいこと」と祝辞を述べました。区は今後美しい農村環境の整備を進めていくとしています。

中新田区大火100周年記念式典



明治40年(1907年)4月26日、中新田で発生した火事は本宅や土蔵など300棟以上を焼失又は半焼しました。たちまち四方に広がり八ツ手まで飛び火しました—これは年代記に記録されている事柄です。

中新田区では12月1日、その大火から100周年を迎えるにあたり、この惨事を思い起こし、再びこのような惨事を招かないため、関係者が参列して記念式典を開催しました。

トロッコ復元 特別展示～森林軌道探査会～敷設

おとしの2月に承認を得て設立した「よみがえれ、八ヶ岳森林軌道」専門部会は約1年半で軌道を敷設することに成功しました。それには、当時運転手として働いていた牛山芳久さんのほか、小松武一さん、中村玄さん、菊池富好さん、故宮坂里見さん、また「女衆」と呼ばれる軌道の保線に携わっていた女性の皆さんのお話などが大変役に立ったようです。実際にお話を伺うと苦労した話も色々出てきますが、興味深い話などもあり、話を聞いて八ヶ岳自然文化園の展示を見たらトロッコが実際に走っていたんだという感覚に触れることができました。



特別展示のオープニングでは『トロッコの歌』が披露されました

森林の里親事業調印式

内閣府認証のNPO法人「エコラ倶楽部」と、中新田区が手を組み森を再生させようという取り組みが、長野県と原村の仲介で始まりました。9月29日には、その「森林の里親(エコラの森)事業」の調印式が、中新田区・区有林のエコラの森にて行われました。原村を愛しているというエコラ倶楽部理事長の大井明弘さんは日本の山を再生したい、守りたいという思いで全国にこのエコラの森を増やし、資源である山を守ることによって地域の活性化につなげたいと話していました。

※内閣府認証というのは、県に認証してもらうことは違い、事務所などの活動拠点を全国にわたって置くことも認められている団体を意味します。



第22回ふるさと大会

東京原郷友会・諏訪市原郷友会・岡谷市原郷友会と村関係者、合計69名が参加してふるさと大会が開催されました。みな1年ぶりに出会う顔に話は尽きない様子でした。東京原郷友会長小松一文さんは、各年代や各層とのディスカッションを行い交流を図りたいという希望を話していました。

